連載・青少年健全育成シリーズ　第263回

「食」が育てること

毎月第１日曜日は「家庭の日」
毎月第３日曜日は「青少年を育む日」です。

青少年育成都留市民会議編集委員

子どもの頃。スーパーやコンビニなど無い時代。仕事から帰ってくると母は着替えもそこそこに、私たち家族のために夕飯の支度に取りかかってくれた。小学生の私は「手伝うよ。」の一言も言えずに黙って母の背中を見ていた。家族で囲む食卓はとても温かかった。何が美味しかったという記憶はないが、母の作ってくれた料理をいただきながら、家族がいることの幸せを子どもながらに感じていたように思う。父が、「お母さんの作るものはどこで食べるよりも美味しいよ。家が一番だ。」と、よく言っていた。すでに他界してしまった父だが、この言葉は、母への最高の感謝の言葉だったのだといまさらながらに思う。

母の背中を見て育った私も今は働く母親である。毎日の食事の支度はそんな容易いものではない。疲れる日もある。今日は手抜きをしようか。などと思って帰宅をすると、そこに実家の母の作品がある。もう高齢の母が孫や娘のためにこうして食べ物を届けてくれる。子ども達はおばあちゃんの味が大好きである。無理をしないでほしいが、本人はこれが生き甲斐だという。

私は子ども達と毎日給食をいただいているが、今の食事情は私が子どもの頃とは大違いである。食材もメニューも豊かで、栄養のバランスも考えられている。学校生活の中で給食は楽しみな時間だ。育ち盛りの子ども達にとって一日の大切な栄養源である。中には不味そうにしている子や、食べ物で遊ぶ子もいる。とても寂しい気持ちになる。

タイの留学生が、日本の会食で残飯になった大量のエビを見て涙したという話を聞いた。その学生の家はエビの養殖を行っている。大切なエビは日本人が食べるので自分達は食べるのをがまんしていたそうだ。その学生には日本人がどのように映ったのだろう。味や好みは人それぞれなのでとやかく言うことはできない。「食べたいものを食べたいだけ食べればよい。」と思う。しかし、この飽食の時代に何か大切なことが置き去りにされているように思う。

人間にとって「食」は生きることそのものだ。食べ物が体をつくる。そして、心もつくられる。愛情のこもった食事は生きる力を育ててくれる。それと同時に命をいただくことへの感謝の気持ちも育ててくれる。たくさんのことが「食」を通して育くまれていくのだと思う。感謝して食べることは人として豊かに生きることと深くつながっているのだと感じる。

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています（10,500部発行）ので、多くの方の目に触れます！

問合先：行政管理課　秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。
掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広　告　掲　載　欄

広　告　掲　載　欄